



TITLE:

雜録

AUTHOR(S):

CITATION:

雜録. 日本外科宝函 1930, 7(3): 505-520

ISSUE DATE:

1930-05-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/200544>

RIGHT:

雜 錄

第三十一回日本外科學會漫評

Jesus Christ

△ 本年ノ外科學會ハ日本醫學會ノ第9分科會トシテ、4月2、3、4ノ3日間ニ亘ツテ、朝日會館デ行ハレタ。風ガ少シ冷タカツタガ、先ヅ春ラシイ天候ニ惠マレテ多數ノ會員ガ演説、討論ニ花ヲ咲カセ得タノハウレシイ事デアツタ。

△ 總會演説ナルモノガ、所謂外賓ノ御愛嬌演説ノ多カツタノニ比ベルト、分科會ニ於ケル演説ハ皆眞摯ノモノバカリデアツタ。我々日本ノ醫學ハ、今更所謂外賓ヲワザワザ呼ビ寄セテ啓發サレナケレバナラナイ程貧弱ナモノデハ無イ。コレハ次回總會長タル者ノ宜敷ク留意スベキ事項デナケレバナラナイ。

△ 我々外科學會員ガ衷心感謝ノ意ヲ表シナケレバナラナイ事ハ今年モ會長ガ終始座席ニ就カレテ、公平ニ會場ト演説ヲ整理サレタ事デ、ソレ故ニ宿題演説ガ三題モアツタノニ關ラズ、豫定ノ演題ヲ無事終了シ得タノdeal。更メテソノ御努力ト御勞力ニ感謝ノ辭ヲ捧ゲル次第deal。

△ 學會開會ノ少シ前ノアル醫事新聞ニ某單科大學ノ教授ガ「外科學會ハスクアリティ」トイフ様ナ題デ、何カ書キ連ネテ居タ中ニ、會長ガ5日世座長ノ席ニアルノハイケナイ。宜シク或ル項目ニ關スル演説ノ間ハソノ項目ニ經驗ノ深イ人ガ代ツテソノ間座長ニ就イタ方ガヨイト云フ事ヲ述ベテ居タガ、コレナゾハ某教授ノ不定見ヲ如實ニ物語ルモノdeal。我々が會長ト迄仰グ人ハ、外科學ノ各項目ニ渡ツテ皆經驗ノ深イ人deal。否大學教授ハ皆スクアラネバナラナイノdeal。殷鑑遠クハナイ。鳥潟、杉村及ビ磯部ノ三會長ハ終始座長席ニ就カレナガラ、快刀斷亂麻ノ裁決ヲ何時デモヤラレタデハ無イカ。實ニ某教授ノ言ノ如キ、自分ノ無能ヲ問ハザルニ物語ツテ居ルモノdeal。

△ 筆者ハ第1日ニ聞イタ演説中デ頭ニ殘ツタ感ジヲ書イテミタイ。妄言多罪ヘ前以テ陳謝シテ置ク次第deal。

3. 直腸麻醉藥「アベルチン」ニ就テ

東北大關口外科

佐藤

愷

立野

義雄

「アベルチン」ニ關スル文献ガアラハレテカラ可成リノ年ガ經ツテ居ルガ、日本人ヘ應用シタモノノ最初ノ發表deal。山根學士ノ追加モアリ、他ノ麻醉藥トノ併合應用ニ依ツテ價值ヲ生ズル如クdealガ、「エーテル」「クロロフォルム」麻醉ト如何ナル點デ如何様ニ優劣ガアルカ、マタ「アベルチン」麻醉ノ本態的過程等ニ關スル明白ナ學理的立證ヲ今後得タイモノdeal。

4. 追加 所謂特發性脱疽ノ「レントゲン」療法ニ就テ

新潟醫大 中 田 瑞 穂
唐 津 英 作

追加演説デアツタガ、言葉が速スギテ不明瞭。然シ學術の發表トシテハ可成リ内容ガ漠然トシテ居タ様ニ思ハレタ。治療ノ標準、而シテ之レヘノ對照。此等ノ點ニ關シテハ甚ダ曖昧模糊タルモノガアツタ。大澤博士ノ追加ハ其ノ處ヲ突イテ居タモノデアル。學術ノ發表ト云フモノハ臨床上ノ一事實ニシテモ對照ト數量的關係トヲ忘却シテハナラナイ。而シテ「レントゲン」照射作用ト交感神經節狀索剔出トハ如何ナル關係ニアルカ。マタ「レ」線ハ如何ニ交感神經ニ作用スルカ。更ニ血流ニハ。此等ノ實驗的研究ヲ討論者ハヤツテ居ルトノコトデアツタカラ早ク其發表ヲ待チタイ。

7. 再ビ余ノ所謂野兎病ニ關スル外科的觀察 福 島 大 原 八 郎

筆者ハ一昨年ノ本會席上ニ於テ演者ノ演説及ビ杉村教授ノ追加ヲ聞イタ事ガアル。本年ノ演説ハソノ病原菌ニ就テ論ジテ居タガ、マタ徹頭徹尾杉村博士ヘノ皮肉ヲ以テ終始シタ觀ガアツタ。開業醫トシテノ傍ラノ、多年一貫セル研究デアルガ、ソノ努力ニ敬意ヲ表スルモノデアル。

12. 骨關節結核ニ對スル骨移植法 (第1回報告)

京都府大横田外科 山 本 明 治

關節結核並ビニ骨結核ニ對シテ Iatzena ノ行ヘル如ク骨移植療法ヲ行ヒ、ソノ治療ハハカルノデアル。結核性關節炎ガ、此ノ手術ノミデ治療シタトノ報告モアツタ。治療シ難キ疾病トサレテ居ル該病ニ對シテ追試スベキ方法デアラウ。兎ニ角治驗例ヲ多數集メテ再ビ報告サレン事ヲ望ムモノデアル。

13. 骨體瘍手術後ノ死腔ノ一新治療法ニ就テ

京大外科 由 茅 二 五 四

難治性ノ下肢骨死腔ニ對シ、先ヅソノ死腔内ノ菌數ヲ少クセンガ爲ニ腰薦交感神經節狀索切除術ヲ行ヒ、同時ニ大網膜ノ一部ヲ切り取ツテ、ソノ一部ヲ筋肉内ニ埋メテ、殘部デ死腔内ヲ填充シ即チ大網膜ノ有莖性移植ヲ行フタノデアル。大澤博士モ同様ノ手術ヲ年少患者ニ行フテ治療センメタ例ヲ追加シ、患者ヲ供覽シタ。而シテ此追加デ注目スベキ點ハ大網膜移植後縫合創ニ感染ノ徵ガ現ハレテ一時ハ分泌液ノ増加スル様ナ事ハアツテモ結局交感神經切除ノ効果ハ死腔内ヲ淨化スルニ至ツタト云フコトデアツタ。マタ某氏ハ同ジ目的デデーキン氏液ヲ以テ11ヶ月ノ長キニ亘リ死腔ヲ洗滌シタル後有莖皮膚筋肉瓣ヲ以テ填充シ治療センメタ例ヲ追加シタ。兩者ノ「イデー」ハ相共ニ似テ居ル。然シ演者ノ方法は多分ノ獨創味ノアル事ヲ見遇ス譯ニハ行カヌ。

17. 間接輸血(枸橼酸曹達法)ト所謂直接輸血トノ比較

愛知醫大 桐 原 眞 一

直接輸血操作ニ於テハ凝血ヲ來シ、ソレニ依ツテ副作用ヲ起ス事ガアルガ間接輸血ニ於テハ斯ル事實ガ起ラナイ點ヲ力説シテ、後者ガ前者ヨリモ優ツテ居ル事ヲ述ベタノデアル。自分モ今迄ノ少イ經驗カラデハアルガ後者ニ賛成シタイ。演者ハ明年ノ宿題擔當者デ問題ハ「輸血」デアル。筆者ハ新知見ノ發表ヲ今カラ期待シテ居ル譯デアル。

18. 生體內ニ於ケル淋巴管系ノ注入法トソノ外科的應用

大 阪 原 守 藏

筆者ハ近畿外科集談會席上デ演者ノ第1報ヲ聞イタ事ガアル。其ノ後追試ノ機會モアツタガ轉移ノ既ニ起ツテ居ル淋巴腺ヘハ墨汁ノ侵入ハ甚ダ不確實デアツタ。ソレ故ニ侵入度ノ強度ニ行ハレテ居ルノハ健康ノ腺デアルト思フ。演者ハ此ノ點ニ關シテ何等述ブル所ガナカツタ。而シテ、若シソレガ、健康ノモノデアルトスレバ此ノ方法ヲ敢テ行フ事ノ意義ガ少クナル。但シ「イデー」ハ面白イモノデアル。

20. 生體內血管「レ」線撮影法ニ就テ

愛知醫大外科 齋 藤 眞

自家考案ニナル「リビヨドール」ヲ主體トスル汎度乳劑ヲ血管内ニ注射シテノ血管X線撮影法デアルガ、多數供覧シタ寫眞モ美事ナモノデアツタ。將來血管疾患ノ診斷ニ大イニ役立ツデアラウガ、演者ノ教室ノ多方面ニ亘ル元氣アル努力ニ敬意ヲ表スルモノデアル。

22. 三叉神經痛ノ本體及ヒ療法

大 阪 フリッツ、ヘルテル

演者ハ缺席デ某氏ガ追加シタ。而モ獨逸人ノ一人モ居ナイ席上デ獨逸語ヲ用キテシヤベリタテタモノダ。會長ノ注意ニモアツタ様ニ、日本人ノ會デハ日本語デアレバヨイノデアル。筆者ハ色々點カラ、某氏ガ自己ノ語學ヲ誇ランガ爲ニ敢テ追加シタモノデアル事ガ解ツテ居ル。キザデアル。コンナ人ハドコカ新聞社ノ中等學校語學雄辯大會ニ出テ「メダル」デモ貰ツテ子供ノ様ニ喜ンデ居レバヨイ。

△以上デ筆者ノ第1日ニ於ケル演題ニ對スル感想ハ書キ盡シタ譯デアルガ、第1日ダケノ學會デ受ケタ感じハ會員諸氏ノ態度ガ一層眞面目ニナツタ事デアル。追加討論ヲ行フニ際シテモ思ヒ付キデ物ヲ云フ如キ者ハ無カツタ。凡テ自己ノ經驗例或ハ實驗ニ立脚シテ責任アル言ヲ吐キ、昨年ノ様ニ他人ノ輝デ相撲ヲ取ラウトシタ如キ者ハ一人モ無カツタノデアル。コレハ昨年ノ本誌學會駁評デ充分警告ヲ發シテ置イタ結果デアラウ。

△ 學會ハ神聖デナケレバナラナイ事ハモトヨリ言フ俟タナイトコロ。然ルニ動モスレバコノ學會ヲ學術發表機關以外ノ他ノ物ニ利用セントスル者ガアル。余等ハ多年コノ學會評ニ於テ此ノ點ニ嚴密ナル注意ヲ促シテ來タ。而モ本年ノ學會ノ如キ充分ニソノ効果ヲ現ハレテ居タノデアル。余等ノ喜ビ之ニ過グル物ハ無イ。余等ノ學會批判記ハ、決シテ貴重ナ

ル業績ニ惡口ヲ言ハシガ爲ニ書イテ居ルノデハナイ。是是非非ノ旗ノ下ニ、學會弊風打破ノ爲ニ物ヲ云ツテ居ル丈デ、而モ之ハ權威アル學術雜誌ニ依ツテ始メテソノ効ガアルノデアル。若シ此ノ點ニ就イテ余等ノ誠意ヲ解スル事無ク非難スル者ガアルトスレバ、余等ハ手袋ヲヌギ棄テルコトモ敢テ辭セナイ。

△ マタ筆者ノ遺憾ニ思フタノハ、演題ヲ出シテ居ナガラ、無斷デ缺席シタ者ガ第1日デ二人モアツタ事デアル。此等二人ノ人ハ自分達ノ爲ニ、自己ノ努力ノ結果ヲ發表シ得ナカタツタ他ノ二人ノ人々ニ充分ニ謝罪スベキデアル。

△ 2日、3日ノ記事並ビニ總評ハ之ヲ他ノ筆者ニユヅリ、愚生ハコレデ筆ヲ擱ク事トスル。更メテ妄言多謝多謝。

外科學會寸感記

寸 関 子

今年ノ學會デ特ニ目ニツクコトノ一ハ、胸腔外科ニ關スル演題ガ頗ニ増加シタ事實デアツタ。此ハ從來トカク該領域ヲ不可侵ノ秘密境トシテ敬遠スル傾向ニアツタ吾國外科ノ一大進歩ヲ象徵スルモノデアラウ。例ヘバ、

胸壁切除並ニ乳房移植術ヲ施シタルヘーজেツト氏乳腺癌ノ一治驗例

岡山醫大 泉外科 山口 節 郎

コレハ追加ニ入レラレタガ、之ナドハ我國ノ現状ニ於テハカナリ興味アル症例ト云フベキデ、先年關口教授ガ同様ニシテ生ジタ胸壁缺損部ニ油紙ヲ貼リツケテ成功セラレタ報告ニ比ベテ時間ガ齎ラス進歩ヲ語ルモノニ外ナラナイ。

31. 平壓開胸術ノ下ニ行ハレタル肺結核ノ手術の療法ニ就テ

京都府大 横田、矢田貝、栗生、

演題ハ今年ノ宿題ト密接ナ關係ノアルモノデ、寧ロ其別働隊ノ觀ガアル。肺結核ノ外科的療法ノ議論ハ今後ニ遺サレタ大問題デ、之ガ効果ニ就テ斷定ガ下サレル迄ニハ相當ノ經驗ガ必要デアラウ。術式中、肋骨ヲ2本切ルコトノ理由ニ就テ質問ガアツテ演者ノ答解ガアリ、大澤君カラモ補足スル所ガアツタガ、要スルニソレハ質問者ガ考ヘタヤウナ本療法ノ根幹的問題ト云フヨリモ、平壓開胸術ノ多クノ場合ニ應用セラレル一般的法式タルニスギナイ。勿論ソレニヨツテ術野ヲ廣クスルコトノ利益ガ演者ニヨツテ高調サレタ點モアルガ、同時ニ肋間筋ノ筋層内デ肋膜ヲ切開シテ置ケバ、胸腔閉鎖ニ當ツテ氣密性ニナン易イト云フ事實ガ問者ニ徹底シテ欲シイ。

32. 平壓開胸開腹術(平壓開腹開胸術)ニヨル食道下部、胃上部手術ニ就テ

京都市大 大 澤 達

平壓開胸術デ胸腔内ノ外科的侵襲ガ樂ニ行ハレ得ルト云ツタ所デビツクリスルヤウナ連中ハサスガニ1930年ノワガ會員中ニハ一人モナイヤウデアアルガ、然ラバドノ程度マデノ侵襲ガ可能デアアルカト云フ點ニ至ツテハ、誰シモ明快ナ解答ヲ與ヘ得ナイデアラウ。演者ガ既ニ14例モノ患者ニ就テ自ラ行ヒ、シカモ將來益良好ナ成績ヲ擧ゲ得ル確信ヲ有スルニ至ツタト云フ術式ハ蓋シ現下ニ於ケル侵襲程度ノ最高記録デアリ、今後恐ラク食道外科手術ニ對スル燈明臺トナルデアラウ。異壓裝置ニ全幅ノ信賴ヲカケテ居ル歐米ニ於テスラ殆ド類例ノナイ術式デアアルダケニ斯界ノ注目ヲ惹クニ充分デアツタ。折モ折、食道外科ハ次回ノ萬國外科學會ノ宿題ニ加ヘラレテ居ル際デアアルカラ、演者ノ此領域ニ於ケル獨創的開拓ヲ通ジテ日本外科ノ眞價ヲ世界ニ宣揚スルコトモ出來ル譯デアアル。トニ角コレニヨツテ食道外科ニ初メテ黎明ガ訪レタコトハ慶賀ニ堪エナイ。尙ホ演者ハ手術後ノ肋膜乃至胸腔内手術創ノ感染ヲ如何ニシテ防止スルカノ問題ニ就テモ相當ノ用意ト確信トラ有スルモノノヤウデアアルカラ、暫ラク時日ヲ藉シテ其大成ヲ祈ル次第デアアル。

33. 平壓開胸術ノ下ニ行ヒタル橫隔膜「ヘルニア」ノ臨床例

長崎醫大 辻 村 秀 夫

外傷性橫隔膜「ヘルニア」ノ一陳舊例デ屢箱頓様發作ヲ訴ヘル患者ニ就テノ治驗デアツタ。演者ガ本例ノ經驗カラ橫隔膜「ヘルニア」根治手術ニ就テ、平壓開胸術ニヨル胸腔式法ヲ推奨シタコトハ容易ニ首肯セラレタ。殊ニ此例デハ腸管ト肺臟トノ間ニ固イ癒着ガアツタト云フカラ、異壓裝置應用ノ下デハ手術ガ非常ニヤリ難イコトデアラウ。

34. 肺臓癌ノ手術例ニ就テ

愛知醫大 齋藤外科 河 石 九 二 夫
江 崎 二 郎

肺臓癌自身ハソレホド珍奇ナモノデハナイガ、此ニ肺葉切除ヲ行ツタ例ハ、少ナクトモ吾國ニ於テハアマリ多クハ無イデアラウ。演者ハ3例中ノ2例ニ手術ヲ行ツテ居リ、シカモ肺葉切除ヲ行ツタ例ガ術後2ヶ月デ突然大出血ノ爲ニ死亡シタノハ惜シイ。尙ホ演者ガ、肺臓手術前ニハ、氣管支撮影術並ニ立體的「レ」線觀察ヲ行ツテ病變部位ヲ確定シ置クベキコトヲ力説シタノハ尤デ、茲デモ試驗的開胸術ガ最後ノ鍵ヲ握ルコトハ腹腔手術ノ場合ト一般デアアル。

追加トシテ九大赤岩外科ノ某君カラ肺臓癌手術例ノ興味アル發表ガアツタ。

胸腔外科手術ノ演題ハ以上ノ5デアツテカナリナ例數ニ達シテ居ルガ、全例盡ク平壓開胸術ノ下デヤラレ其中タマノ1例スラ危險ナ症狀ヲ見ナカツタ相デアアル。コレデ先年(第26回)福岡ノ總會デ平壓開胸術ヲ無謀ト非難シタ人々モヤツト得心ガ出來タデアラウ。

宿題 肺結核ノ人工氣胸療法

有 馬 英 二 教授

肺結核ガ純内科的疾患デアルト考ヘテ居ル人々ハ今日ト雖相當多數ニ上ルデアラウカラ外科學會デ此報告ヲ聽クコトハ決シテ徒爾デナイ筈ダ。茲デ人工氣胸法ヲ一ノ外科的操作ト見レバコレハ内科醫ノ外科的進出トモ云ヘヤウシ、反對ニ外科醫ノ内科領域ヘノ侵入トモ云ヘル譯デ、ドツチニシテモ今ヤ肺結核ガ内科外科ノ境域ニ迷ツテ居ルコトハ事實デアリ、此ヲ濟度スルモノガ内科醫デアルカ、ハタマタ外科醫デアルカハ今後ニ遺サレタ興味津々ノ問題デアル。

肺結核ハ從來ノ内科的療法ニヨツテモアル程度マデ治シ得ルノデアルカラ、人工氣胸療法ニヨツテ初メテ治癒セシメ得タ症例ヲ甚ダ多數ニ掲出シ得ル時ガ來ルマデハ、「肺結核ハ人工氣胸療法デモ治ルモノダ」ト云フ事實ヲ示スニ止マリハシナイドラウカ。吾等ハ演者ノ論理井然タル雄辯ニ魅了セラレテ時ノ經ツノモ覺エナカッタ、殊ニ實驗方面ニ於ケル非凡ノ努力ト新知見トニ敬意ヲ表スルモノデ、其萎縮肺ノ循環ニ關スル見解ノ如キハ方ニ一家言タルニ値スラ喜ブ。

宿題 肺結核ノ外科

石川 昇 教授

前者ガ内科醫ノ外科的進出ト云ヘルナラ、コレハ純然タル外科醫ノ内科領域ヘノ侵入デアリ、コノ意味デ吾々外科醫ニトツテハ最興味アル問題ノ一デアル。此興味ヲ喉ルニ最力アツタモノトシテハ、指ヲ先ツ演者ニ屈シナケレバナラス。演者ノ過去數年ニ亘ル不撓ノ努力ハ既ニ吾人ノ興味ヲ充分吸ヒ盡シタ觀ガアリ、從テ今年ノ報告ニヨツテ特ニ啓發セラレタ點ハ割合少イヤウデアツタガ、コレハソレダケ過去ノ努力ノ大デアツタコトヲ示スモノニ外ナラナイ。演者ハ從來ヨリモ絶對的適應症ノ範圍ヲ擴張シテ、内科的絶對適應症ノ中デ人工氣胸術ヲ奏効シナイ場合(例ヘバ肋膜癒着等)及ビ効果ヲ迅速ナラシメル必要アル場合等々トセラレタヤウデアツタ。サモアレ、此難問題ニ向ツテアレダケノ症例ヲ集メ種々ノ方法ノ比較研究ヲ試ミテ夫々ノ適用法ヲ系統ヅケタ演者ノ功績ハ其雄辯ト相俟ツテ充分聽者ニ徹底シタコトデアラウ。

要スルニ肺結核問題ハ豫防、治療ノ兩方面カラ觀テ全ク國家的或ハ人類の意義ヲモツ譯デアルカラ續々研究ガ發表セラレルデアラウガ、今後モ單ナル泰西醫家ノ模倣ヲハナレテ獨創的研究ノ輩出スルコトヲ切望ニ堪エナイ。

37. 腰薦交感神經節切除ノ一新法

京都府大 望月外科 來 須 正 男
櫻 井 雅 四 郎

腰薦交感神經節ノ腹膜外切除ノ試ハ相當以前ノコトデアリ、既ニ Perpina ノ臨床例ノ發表モアツタコトダカラ、全然コレト同一方法ヲ採用シタ演者ニ「プリオリテート」ヲ與ヘルコトノ出来ナイ點ハ遺憾デアル。此ニ對シテ青柳君ノ追加シタ方法ハ直腹筋外道カラ進ムモノデ、筋肉切斷ヲ要セナイ點デ獨創味ガアル。何レニシテモ演者ノ主張スルヤウニ腰

薦交感神經節切除ヲ排他的ニ此術式ノミニ依ルト云フコトニハ、度カニ賛成出来ナイトスル大澤君ノ意見ハ妥當デアラウ。

39. 急性腹膜炎ニ於ケル鼓腸内瓦斯成因並ニ處置ニ就テ

九大 赤岩外科 佐 田 正 人

提唱ノ嶄新ナ點デ記憶ニ殘ツテ居ル。昔カラ「ヒステリー」患者中ニ時々多量ノ空氣ヲ嚥下スルモノガアルコトハ聞ヒテ居タガ今演者ノ立證ニヨツテ更ニ仲間ガ殖エタ譯デアル。何レ其中、仙人ハ度ノ吸フテ生き、泥棒ハ風ヲ喰ツテ逃走シ、「ヒステリー」患者ト急性腹膜炎患者ハ空氣ヲ嚥ンデ兩者ヲ驚カス ナドノ警句ガ生レヨウモ知レス。餘事ハ擬テ置キ演者ノ見解ニ從ヘバ、此場合嚥下空氣量ノ増加スルコトガ重大原因ノヤウデアルガ、コレハ寧ロ腸管ノ麻痺ニ因ツテ嚥下空氣ノ吸收ガ妨ゲラレル爲デアルト簡單ニ説明スル譯ニハ行クマイカ。デナイト精神興奮、嘔吐、嘔氣、腹痛ナドガ空氣多嚥犯ナル常識上ノ冤罪ヲ被ラネバナナクナル。シテ又「ボルブルス」鼓腸ナドノ説明モヤ、コシクナル。

40. 胃鏡検査ノ經驗ト二三ノ改良 東大 赤岩外科 宮 城 順

證據ヲ眼ノ前ニ見ナケレバ承知ノ出来ヌ科學者ガ、孔ト云フ孔、腔ト云フ腔ノスペテニ對シテ直達鏡ヲ考案シタコトニ不思議ハナイガ、ソレニシテモ胃ノヤウニ雜多ナ病變ヲ起ス臓器ニ向ツテノ胃鏡検査ガトカク蔑ニセラレテ居タコトハ二十世紀ノ奇怪デアル。演者ノ力説ハ至極尤。

43. 急性十二指腸閉塞症ノ藥物的治療ニ關スル實驗的研究

京城大 鹽田外科 伊 藤 孝 一 郎

44. 急性腸閉塞時ニ於ケル自家融解ニ就テ

東大 小川外科 調 來 助

45. 絞縊性腸下通症ノ實驗的研究 東大 鹽田外科 鈴 木 忠 一 郎

46. 腸閉塞症反穿孔性腹膜炎ノレントゲン診斷

愛知醫 齋 藤 眞
瀧 本 俊 夫

47. 急性「イレウス」ニ於ケル血漿蛋白ノ變化ニ就テ

大 阪 三 羽 兼 義
谷 口 出

48. 「イレウス」ニ於ケル血壓下降機轉ニ關スル考察

京城大 外科 小 川 蕃
三 浦 良 雄

追加 腸閉塞時ニ於ケル肝臓並ニ腎臓ノ機能

同前 増田正徳

今年ノ演題中、數カラ言ヘバ腸閉塞症ニ關スルモノガ一頭地ヲ拔イテ以上ノ6題1追加ノ他ニモ1題1追加ガアツタ。此等ノ中デ東大鹽田外科ト京城大小川外科トハ數年來引續イテノ研究デアツテ、研究期間ニ於テ1日ノ長アル鹽田外科ガ今回遂ニ治療方面ニマデ進出シタコトヲ偉トスル。兩教室共從來「イレウス」中淤ニ於テハ閉塞部ヨリモ末梢ノ腸管ニ重要ナ意義ガアルト主張スル點デ共通シテ居タガ今年ノ演説ヲ聽テ見ルト、小川外科ガ絶對論デアアルノニ對シテ鹽田外科ハ相對論デアアルダケノ差ガアルヤウダツタ。

48ノ考察ニ對シテハ果然種々ノ方面カラ討論ガ起ツタガソレニ對スル演者ノ用意ニハ幾分不充分ナ點モアツタヤウダ。殊ニ肺動脈血壓ニ關スル角田君ノ質問ニ對シテ演者ノ答ヘタ態度ハ遺憾デアツタ。

52. 所謂腹部三主徴ノ成因ニ關スル實驗的研究

九大 後藤外科 宮川 潔

追加 果シテ腹部三症候ナルモノ在リヤ 岩手縣水澤病院 立林 洋一

第31回總會ニ於ケル掉尾ノ大論戰ハ戢然コノ演題ヲ中心トシテ展開サレタ。シカモ九大外科ノ兩教室對抗ト云ツタヤウナ議論以外ノ興味カラモ、又大物後藤教授自カラ陣頭ニ馬ヲ進メラレタ點カラモ、聽者ノ神經ヲ緊張サセルニ充分デアツタ。白面ノ勇士立林君ノ颯爽タル武者振トソノ印象的ナ熱辯トハ堅陣ノ一角ヲ突クニ充分デアツタシ、此ニ對シテ後藤教授モ稍興奮ノ態ニ見ヘタガ流石ニ骨ヲ刺ス皮肉ヲ以テ應酬サレタ。タゞ議論ノ勝敗ナドハ此場合云フベキ限デ無イ。

53. 膽囊胃吻合術ノ胃壁及膽道殊ニ胃粘膜創傷治療ニ及ボス影響ニ就テ

東大 青山外科 古畑 積善

追加 十二指腸膽囊吻合ト胃膽囊吻合ノ比較研究

九大 赤岩外科 三宅 徳三郎

膽囊胃吻合術ヲ行ハレタ犬ノ胃酸度ノ成績ニ就テ兩者ノ間ニ意見ノ杆格ガアツテ面白イ討論トナツタ。イツモ感スルコトダガ、學會ノ討論ハ「プロトコル」ヲ差挾シデノ對陣デアアルダケニ動モスレバ水掛論ニ終ル傾向ガ多イ。ソレヲ聽衆ハ言ヒ廻シノ旨イ方ガ勝ツタト思ヒコンデ終フノデ厄介デアリ、ソノ爲ニ演者ガ「カムフラージ」ニ腐心スルヤウナコトニデモナレバ結果ハ重大トナル。學會ハ事實ノ審判廷デアアルカラ宜シク態度ハ公明ニ發表ハ正直ニデナレバナラス。56ノ演者ノ態度ハ此意味デ推賞ニ値スル。

要スルニ今年ノ「プログラム」ハ優秀ナ演題ガ多カツタ。中デモ次ノ諸題ノ如キハ夫々異ツタ特徴ニヨツテ興味深ク傾聽センメタト思フ。

54. 壞疽性蟲樣突起炎ニ就テ

臺北醫院外科 本名 文任

菅 野 尙 夫

55. 臨床及比較解剖上ノ實驗ニ基ク痔核並ニ直腸血管特ニ痔靜脈絲球ノ供覽

東 京 山 本 八 治

58. 血液内ニ注射セル「ビリルビン」ノ膽汁中ヘノ排泄狀況ニ及ボス各種
麻醉藥ノ影響ニ就テ

東大 青山外科 高 根 正 二

吾等ガ科學ノ領域ハ時々刻々ニ生長シツ、アル。一個人、一臨床ノ力ヲ以テシテハ、モ
ハヤ此ガ一斑ヲ窺ムルコトスラ敢テ容易ナ業デハナイ。此間ニアツテ外科的能力ノ統一ヲ
圖リ、各人抱懷スル所ノ創意ヲ親シク交換シ、作業ノ共同ヲ促進スルハ、實ニワガ外科學
會ノ重大使命デアル。

然シナガラ、吾等ヲシテ言ハシムレバ、學會ニハ本來此他一、一種ノ祭典或ハ儀式トシ
テノ尊嚴ヲモ兼備ヘシメタイモノデアル。斯シテ此ニ集マル各人ハ、學術ニ對スル敬虔ノ
心ト、研究ニ向ツテノ眞摯ナ態度トヲ要求セラレテ居ルト觀スルノデアル。此前提ヲモツ
テ過去ノ外科學會ヲ回顧スレバ、ソコニ多少ノ遺憾ナ點ガ無イデモナイ。

否、例證ヲ過去ニ求メルマデモ無イ。現ニ今年ノ閉會時ノ光景ハ如何デアルカ。敢テ閉
會時ノミト云ハナイ。

苟クモ、一臨床ノ長デアリ、或ハ多數學徒ノ中心デアル人々ハ特別ノ事情ノ無イ限り努
メテ毎日出席シテ欲シイ。單ニソレダケデ如何ニ學會ノ士氣ヲ鼓舞スルコトカ。ソシテ會
員ノ大多數ハ少ナクトモ最後ノ幕ヲ閉ヂル際ニハコ、ニ集ツテ、連日粉身ノ勞ヲ厭ハレザ
リシ會長ニ對スル謝意ヲ表スルコトニシテ欲シイ。コレガドレダケ學會トシテノ重ミヲ増
シ、儀式トシテノ莊嚴ヲ加ヘルコトデアラウ。敢テ筆者望蜀ノ願トスル。

筆者ハ第31回外科學會第2第3日ニ於テ演了セラレタ演題、追加、討論等ノ中カラ、現ト
ナク幻トモナク漂泛スル以上ノ事象ヲ拉シ來ツテ學會寸感記ノ對象トシタ譯デアルガ腦裏
モトヨリ本來空、事理ノ眞ニ徹セス評隲ノ背縈ニ當ラザルハ偏ヘニ筆者ノ不敏ノ致ス所デ
敢テ他意ノ無イコトヲ斷ツテ筆ヲ擱ク。妄言多罪

伊藤隼三先生ノ思出ノ記

伊 藤 弘

私ハ明治43年カラ大正13年即チ先生ガ停年御勇退遊バサレル迄約15ケ年間殆ド絶エス先生ノ御側ニ居テ御薫陶ヲ受ケマシタ。

大學ヲ卒業スルト間モ無ク汗ジミタ羊羹色ノ學生服ヲ脱ギ捨テ其ノ當時流行ノ背廣服ヲ着テト角ノ御醫者様ニナツタ積リデ意氣揚々トシテ病舎ニ入り生レテ初メテ患者ヲ自分デ診察スルコトニナツタガ病舎ニ入ツテ漸ク第2日目先生ノ御廻診ニ附イテ病舎ヲ巡廻致シマシタトコロ私ノ患者ノ前ニ(何病デ有ツタカ記憶無シ)來マスト先生ハ尿量ヲ測定シマシタカト間ハレマシタカラ致シマセスト答ヘマシタトコロ先生ハ例ノ濃イ眉毛ヲ吊リ上げ眉宇ニ皺ヲ寄セ君ハ尿量測定法ヲ知ツテ居ルカ看護婦ナドニマカセテ置イテハイカスト病舎ノ中デ眼玉ガ飛び出ル程叱ラレマシタ、其ノ時ハ私モ餘リ善イ心持ニナレナカッタデスガヨク反省シテ見マスト之レハ先生ガ「イロハ」ノ「イ」カラ實踐躬行セヨトノ御教訓ナリト悟ツテ以來私ハ尿糞便ノ検査カラ決シテ看護婦ニ命スル事ナク全部自分デ検査ヲヤル様ニナリ後來益スル所ガ澤山ニアリマシタ。

此ノ爆發的ナ御眼玉ヲ最初ニ頂戴シテ以來私モ一生懸命ニ勉強致シマシタ御蔭デ其ノ後ハ餘リ前例ヲ繰返シマセンデシタ、此ノ御廻診ハ吾々新人ノ「ドクターレン」ノ試験場デアツタ爲メ廻診前夜ハ病舎ハサナガラ戰場ノ様デシタ、廻診前日ハ何時モ手術日デアル爲メニ手術ガ濟ムノカ6時カ7時頃ニナリマス其レカラ入湯夕食ヲ濟シテカラ新入院患者ノ「カルテ」ヲ書クノデ翌日廻診迄ニ尿便ノ検査カラ一點ノ缺點ヲモ發見サレヌ様ニ完成セネバナラムノデスカラ大抵11時カ12時ニナリマス、手術ガ少シ遅レルト午前1時頃ニモナル事ガアリマシタ、翌日ノ廻診ガ濟ムト病舎ノ醫員達ハ嵐ノ去ツタ後ノ様ニモ思ハレ又ハ學生時代ノ學期試験ガ了ツタ様ナ氣安サニナツタモノデス、ソシテ其日ノ廻診中ニ起ツタ事共ヲ話シ合ツテ暫時談笑スルノガ樂シミノツデ有リマシタ、午後ハ早速圖書室ニ行ツテ翌日手術ノ準備ノ爲メニ讀書スルト云フ具合デ殆ド寸暇ナク夜ハ隔日ニ11,2時頃ニナルノデ其ノ當時吾々ハ同級ノ人デ内科ニ入ツタ人達ノ中デ實ハ僕モ外科ニ行キタカツタガ外科ニ行クト神經衰弱ニナルカラ止メタングナド、聞イタコトモアツタ、此ノ様ナ急シイ間ニモ横着組ノ吾々ハ寸暇ヲ利用シテヨク飲ミニ出掛ケタモノダツタ、其ノ外廻診デ思ヒ起スコトハ或日某醫員ガ手術後ノ肺炎患者ヲ先生ニ説明スルニ「ラツセル」ガ聽エマスト述ベタ所先生ハ直チニ「カルテ」ヲ見テ「エー、貴君ハ内科ノ試験ヲ最一度受ケルンデツセ」ト云ハレ本人ハ全く面喰ツタ様デシタガ後デ「カルテ」ヲ見ルト「ラツセル」ノミ書キ如何ナル種類ノ「ラツセル」カ又打診上ノ症狀ヲ少シモ書イテ無イ事ガ解リマシタ、之レハ外科醫者ガ餘リニ切ル事ノミニ興味ヲ持ツテ内科的知識ノ餘リ乏シイコトヲ戒メラレタノデ有リマス、又先生ハ常々「切ルノハ本當ノ醫者デ有マセンデ注射デ(皮下注射ノ意味、靜脈注射ハ危險

ガアルト云ハル)病ヲ癒スノガ本當デスゼ」トヨク申サレタモノデシタ。

又或時某醫員が必要モ無キ患者ニ立派ニ脈搏曲線ヲ書カシメテ廻診ノ時得意ニナツテ自分ノ勉強振リヲ説明セムト試ミルヤ忽チ先生ハ「生理學者ノ慰ミデスゼ」ト一言云ハレタ丈デ一瞥ヲモ與ヘラレナカツタ、此様ナ風ニ先生ハ常ニ御言葉ガ勘ナイノデ本當ノ先生ノ意中ヲ推察スルノガ中々困難デアツタ、御目出度イ人ハ何時モ善意ニ解釋シテ樂觀シテ居ルシ悲觀ノ人ハ無野見ニ色々ト惡イ方ニ想像シテ悲觀者タリ此事ニハ中々滑稽ナ笑話モ澤山アツタ。

先生ハ大抵人ヲ呼バレルノ「アノ人ヲ呼ンデ下サイ」ト言ハレテ名前ヲ殆ド云ハレムノデ之ヲ承ツタ人ハ前後ノ模様ヨリ推察シテ所謂アノ人ヲ呼ムデ來ルト全ク人違ヒデアツタ様ナ面白イ事モアツタ。

先生ノ語學ニ堪能デアラレタ事ハ定評ノ有ル所デ有リマシタガ一寸「カルテ」ニ間違ツタ字ガアツテモ直チニ發見サレルモノデスカ入院患者ノ「カルテ」ヲ書クニシテモ外來患者ノ豫診ヲ取ルニシテモ並書ヲ絶エズ携帯シテ一言一句ニモ注意シテ書イタモノデシタ、所ガ入舍後1年位イモ過ギテ後某醫員ガ何時モ間違ツタ字ヲ書イタモノガ有リマシタラ先生ハ「何時迄コンナ字ヲ書クノデスセ」ト言ハレ某醫員ハ其レ以來先生ノ信用ヲ全ク落シテシマヒマシタ。

先生ハ人ヲ信用サレルコトモ一朝一夕デアリマセムガ一度信用サレマシタラ殆ンド安心シテ其ノ人ニマカセルト云フ風デスガ一度信用ヲ失ツタ人ハ如何ニ努力シテモ中々其ノ信用ヲ回復スルコトガ困難ナ様ニ見受ケラレマシタ、先生ハ餘リニ頭腦明晰デアラレタ爲メ先生ト對談ランテ居ルト腹ノ底迄見透サレル様ナ氣持ガスルトハ門下生ノ一般ノ言葉デアリマシタ、ガ某々氏等ハ先生ノ前ヘ出ルト何時モ外ソ行キノ特種ノ奇聲ヲ出シテ慇懃頗ル勤メル態度ナド他カラ見ルト中々滑稽ナ場面モ有ツタ、先生ノ御明晰デアラレタ事ハ今更申ス迄モナイ事デアルガ吾々ガ論文ヲ書キ上げ先生ノ御訂正ヲ乞フト一度御訂正下サツテ書キ換ヘテ持參スルト當ノ論文持參者ヨリモ先生ノ方ガ既ニ其内容ニ就テハ委シク知ツテ居ラレルノデ皆面喰フ有様デシタ、又非常ニ綿密デアツテ其當時論文ハ多ク獨逸ノ雜誌ニ出タモノデ今ノ様ナ「タイピスト」モ居ラス皆自分デ「タイプライター」ヲ打ツタモノダガ大抵ノ人ハ其レヲ打チ上ゲタ後勿論充分讀返シ萬全ヲ期シテ先生ノ御手元迄持參スルノデアアルガ必ス字句ノ誤リヲ發見セラレテオ眼玉ヲ頂戴シタモノダ、然シ論文ニ就テハ先生御自身ノ論文デバモアルカノ様ニ親切ニ御訂正頂イタモノデアアル、教室員一同何レモ皆立派ナ論文ヲ書キ上げ先生ノ御賞メノ御言葉頂戴セムモノト努力シタモノデアツタガ澤山ノ門下生ノ中デ御賞メニ預ツタ様ナ話ハ一向聞イタ事ガナカツタガ唯一度「エー、アノ人ハ名文ヲ書キマスゼ」トオ賞メノ言葉ヲ頂戴シタ人ガ有ツタ、其ノアノ人ハ即チ現在ノ鳥潟教授デ

アツタ。

先生ノ御容姿ヲ追想致シマスト私ハ何時モ其當時政界ノ大立物デアツタ加藤高明氏ニ餘程ヨク似テ居ラレタ様ニ思ハレマス、太ク濃キ肩厚キ口唇等髭髯タルモノデアツタ、又決斷心ノ非常ニ強ソウナ御容姿デアツタ實際ニ決斷心ガ非常ニ強カツタ、今確カニ記憶致シマセヌガ私が助教授時代デアツタ様ニ思ハレマスカラ10年以上前ノ事デアリマスガ日本外科學會總會ガ名古屋デ開催サレマシタ時會長ハ故熊谷幸之輔氏デアツタ、其ノ當時ハ我レート業績ヲ澤山ニ造リ學會ニ出ルノ名譽ト思フテ居リマシタカラ當時研究室ニ居ラレタ緒方祐將君(現在大阪市緒方婦人科病院長)横井濟君(現在名古屋好生館病院長)及ビ私等ハ演題ヲ四題位イ宛提出致シマシタ所會長ヨリ演題ノ一部ヲ削除スル由申シテ參リマシタノデ此ノ由先生ニ報告致シマシタ所即座ニ先生ノ逆鱗ニ觸レ教室員一同ノ演題ヲ撤回セヨト命ゼラレマシテ全ク私等ハ面喰ツテ終ヒマシタ、其間一瞬ノ猶豫モナク即座ニ決斷セラレタ様デアリマシタ。其爲メニ其年ノ學會ハ御流レトナリ教室員一同打チ揃ヒ彦根ノ樂々園ニ集リ親睦會ヲ開キ先生初メ一同ハ通飲馬食ヲシ腕角力ノ紅白勝負等ガ行ハレ夜ノ更ケルノモ知ラズ相互ニ談笑シ數十名ガ大廣間デ枕ヲ並ベテ宿リマシタ、翌日ハ又石山三日月樓デ同様前日ノ蒸返シヲヤツテ翌々日京都へ歸ツタ様ナ事モアツタ。

先生ハ時ノ軍醫總監鶴田禎次郎氏トハ非常ニ親交ガ深カツタ様ニ思ハレマシタ、丁度4月ノ學會ノ或日東京ノ某料亭デ先生ト總監ト私トデ中食ヲ取ツタ事ガ有リマシタガ盃ノ廻ルニ連レテ四方山ノ話ガ出テ最後ニ總監ガ繰返繰返先生ニ申サレタ事ガ未ダニ判然ト記憶シテ居リマスガ其事ハ時ノ醫界ノ大御所(東大デハ云フ)トモ云ハレタ東大教授故青山胤通博士ト先生トノ中ガ宜シクナイ事ヲ總監ガ非常ニ氣ニ病ムデ居ラレタ様デ今夜醫學會總會々場(宴遊會)デ僕ガ仲介ノ勞ヲ取ルカラ是非出席シテ呉レ給ヘト再三云ハレマシタガ先生ハ餘リ善イ返事ヲサレナカツタガ例ノ神田ノ旅館ニ引上ゲテカラ又飲ミ始メラレテ遂ニ5時頃寢テ終ハレ宴遊會ニハトウトウ出席セラレマセンデシタ、今ト違ツテ其當時ハ學會中モ旅館デ随分晩酌ガ盛ンダツタガ時ニ「メートル」ノ上ガツタ晩ナドハ更ニ先生ヲ先頭トシテ銀座壺迄飲ミニ出掛ケタ事モアツタ或日ノコト夜1時頃迄「銀ブラ」ヲシテ(其當時ハコンナ言葉モナカツタガ)旅館ニ歸ツテ又飲ミ直シ午前2時半頃床ニ付イタ事ガアリマシタガ私モ好ナ道ナラ人三倍ト飲ムダモノダカラ前後ヲ忘レテ熟睡シテシマヒマシタガ私ハ今寢タ所ダト思フノニ早ヤ「伊藤君早く起キマセヌカ學會ニ間ニ會ヒマセヌデ」ト起サレ驚イテ誰レダラフト見ルト先生デ有リマシタ、時ニ午前6時デシタ當時私ノ演説ハ最初カラ三人目位ノ順番デアツタノデスガ前日飲ミ過シ當ノ私ハ白河夜船ト寢テシマツテ居ツタノデアリマスガ先生ノ方ガ絶エズ注意シテ居ツテ下サツタ事ハ實ニ弟子思ヒノ情厚キ事慈母ノ如クデアリマシタコトモ此ノ一事ヲ以テモ知ラレルノデ私モ感激ノ餘リ寢サモ忘レ早速飛び起キ

仕度整へ會場へ急イダ事モアツタ。

斯ク思ヒ起セバ數限リハ有リマセンガ先生ハ門下生ヲ指導サレルニ時ニ嚴父ノ如ク時ニ慈母ノ如ク愛サル、以テ弟子ハ何レモ其ノ德ヲ慕ヒ一日モ長ク先生ノ御存命ヲ祈ツテ止マナカツタノデシタガ今ハ幽明所ヲ異ニシテ再ビ相見ミルノ機モ無クナツテ早ヤ1週年トナツタ茲ニ往事ノコト共追想シ拙キ筆ヲモ願ミズ思ヒ起セシマ、ヲ記シマシタ。

伊藤先生ヲ思フ

小倉 副島 豫 四 郎

私ハ伊藤先生ノ門下中デ、最モ長ク、最モ親シク教ヲ受ケター一人ダト思ヒマス、從テ、先生ノ思出ノ種モ澤山アリマスガ、少シ書イテミタイト思ヒマス。

卒業シテ間モナイコトデアツタ、教室ニ出デ1週間位ノ時、先生ハ突然、「アンタハ養子デスカ」ト問ハレタコトガアツタ、「早速養子デスカ、ドウシテ先生ハソソナオ尋ネヲサレマスカ」ト申シマシタラ、先生ハ、「私モ養子デスカラ判リマス」、ト云ハレマシタ、先生ノ御觀察ノ銳利ナルニ驚キマシタ。

私ノ助手時代、多分明治40年ノ夏ト思ヒマス、先生ノ御廻診ノ御半ノシテ、9病舎カラ10病舎ニ行ク廊下デ、毎常ノ如ク、先ニ立ツテ、速歩テ行ツテ居ラレタ先生ガ、俄ニ立留マラレ、後ヲ向カレ、私ノ顔ヲ見詰メラレナガラ、「アノ鳥潟君ニソー云ツテ下サイ、生シテモエート云ツテ下サイ」、ト云ハレマシタノデ、私ハ何ノ事ダカ判ラナイデボンヤリシテ居ルト、「アンタモ生シタラドウデスカ、生シタイト思ウテモ生ヘナイ人モアリマス、アンタハ生ヘソウデスカ 生シタラドウデスカ、私ハ云ツタコトモアルシ、書イタコトモアルノデ(東京醫學會雜誌、京大外科第2講座ニ就クノ辭、一ト思ハル)今迄ハ生サナカツタガ、能ク能ク考ウレバ、ソー云ヘバ眉毛モ剃ラネバナラズ、頭モ坊主ニナラネバナラナイ事ニナル、私モコレカラ生シマスデ、鳥潟君ニソー云ツテ下サイ、鬚ヲ生シテモエート云ツテ下サイ」之ハ翌日ヨリ、例年ノ如ク約1ヶ月御郷里鳥取ニ歸ラレル前日デアツタ。後デ鳥潟君ニハ、先生ノ云ハレタコトヲ有ノ儘ニ御傳ヘシマシタ、其頃ノ鳥潟君ハメツタニ剃ラレナカツタノデ、隨分長ク延ビテ、鬚ヲ貯ヘラル、積リナノカ、ソウデナイノカー向判リ兼ねル時デアツタ。

滿1ヶ月後、(8月末日カ9月1日頃)ノ夕方、一給仕ガ、院長サンガ事務室カラオ呼ダカラ、直グ來テ下サイト使ニ來タノデ、事務室ニ行ツテ見ルト、先生ノ御顔ガ何ンダカ違ツタ様ニ思ハレタ、違ウ様ニ思ハレタ筈ダ、未ダ嘗テ見タコトノナカツタ、先生ノ上髭ヲ見タカラデアツタ。

或年ノ春、東京デ開カレル日本外科學會ニ出席ノ爲メ、先生ヲ始メ教室員約20名ト夜行3等列車デ、東京ニ行キマシタ、其ノ時先生ハ和服ヲ召サレ、マントヲ引掛ケ、山高帽子ニ靴バキデ、洋傘ト、洋服ヲ包ンダ風呂敷包ヲ持タレテ居タ、汽車ノ内デハ例ニヨツテ、瓶詰日本酒ノ喇叭飲ミデ、大ハシヤギニハシヤイデ、翌日神田ノ定宿ニ着キ、晚餐一盃機嫌デ、先生モ宿屋ノドテラヲ着ラレテ、寄世席ニ行ツタコトガアツタ、其ノ時間カサレタノガ壺阪デアツタガ、先生ハゲーゲート高軒デ、半分以上ハ聞カレ無カツタ様デアツタ。

翌朝7時頃朝食ヲ済シ、學會ニ行ク爲メ、皆シナ、洋服ニ着更ヘタガ、先生モ風呂敷包ヨリ服ヲ取出サレ着ラレテ居タガ、何カ頻ニ何カブツブツ云ヒナガラ探シテ居ラレル様子ダツタノデ、何ヲオ探シニナリマスカトオ尋ネスルト「ネツクタイ」ガ無イ、家内ガ忘レタニ違ヒナイ、困ツタ家内ダトブツブツ云ツテ居ラレタ、幸ヒ私ガ黒ノ蝶形ノ「ネツクタイ」ヲ別ニ持ツテ居タノデ、此デ間ニ合ヒマスナラバオ使ヒ下サイマスヨウニ差出シマシタ、夫レデハ拜倡シマス、「ネツクタイ」ヲ包ニ入レ忘レタ丈デハ家内ヲ離縁スル譯ニモ行クマイ若シ私ガ旨日ニデモナツタラ家内ニ治シテ貰ハンケレバナラナイカラ。

或ル日ノ事デアツタ、先生ガ、「アンター一寸手ハスキマセンカ、オ頼ミシタイト思ヒマスガ」ト云ハレタノデ、私デ出來ル事ナラ致シマスト返事シマシタラ、夫ナラ外來診察室迄來テ下サイマスマイカト云ハレ、附イテ行クト、診察臺ノ上ニ飛上リ仰臥セラレ、オ頭ヲ撫レラレツ、三四個ノ米粒大ノ黒キ疣ヲ指サレ、此等ヲ焼イテ下サイマセンカ、段々年ヲ取ルト黒色瘡ニナルカモ知レナイカラ、トノ事デ、夫レデハ一寸オ待チテ願ヒタイ、今局所麻痺ノ用意ヲ致シマスカラト申シマス、何、此レ位ノ事ニハ麻痺ハ入ラス、タゞ焼イタラエ、デスト云ハレ、夫レデモト申シテモ中々聞キ入レナカツタ、己ヲ得ズ「リゾール」綿紗デ拭ヒテ、イキナリニ「パ克蘭」デジュージユート焼キナガラ、ソツトオ顔ヲノゾイテ見マスニ、顔色自若、眉ヲシカメル、コトモナク、微動ダニセラレス、恰モ深麻酔ニ於ケルガ如シデアツタ、先生ハ途中テ思ヒ出サレタ様ニ「アノ充分ニ焼イトイテ下サイ、マタ出來ルトウルサイカラ、マタ其ノ外ニハ有マセンカ、探シテ見テ下サイ、有ツタラ傳手ニ焼イトイテ下サイ」ト云ハレタ、充分ニ深く且ツ廣ク焼キテ、之デ充分ト思ヒマスガト申シマス、夫レデハ「デルマトール」ヲ降リカケテ下サイ、繃帶ハ餘リギョウサンダカラトノ事デ、其ノ通り致シマス、先生ハ、秘瀝一笑、「オ手數ヲ掛ケマシタ」トノー言ヲ殘サレテ、サツサト廊下ノ彼方ニ例ノ急步調デ行カレタ、私ハ先生ノ御辛率ノ強ヒニ驚キマシタ。

先生ハ常ニ書籍ヲ廣ク熟讀スルコトヲハ終シク曰ハレテオツタ、シカシー一面ニ於テハ殆ンド之ト正反對ニ、或人ガ何ト云ツタ、何本ニ何ト書イデアツタ、ダカラコフデアラウ等ト云ホウモノナラ、ヒドクオ小言ヲ頂戴スルコトガアル、人ノ云ツタコト、書イタ事ヲ直

様信用スル様デハ學問ハ進歩シナイ、人ノ云ツタ事、書イタコトラー々信用スル様ナラ聞
ナイ、見ナイガエイ、自分デ經驗シ、實證シタ後始メテ人ノ言ノ信ズベキハ信ズベシ、
盲信スベカラズトノ御意見ノ様ニ思ハレタ。

外來診察ノ時ハ數十名ノ新患者ヲ1時間餘リデ診ラル、ヲ常トセラレタ、ダカラ、稀ニ
ハ外來診斷ト、手術診斷若クハ病理診斷ト一致シナイ事モアツタ、先生ハ擔當醫員ノ精細
ナル検査ノ結果、先生ノ外來診斷ト異ツタ結論ニナツタ時ニハ大抵喜バレテ、ソウデシタ
カ、ソレハ氣ガ附カナカツタ、ソウデシタカト云ハル、コトガ多カツタ、然シ先生ガ甲ト
思ツテ居ラル、時乙ダト主張スル人アル時ハ必ス先ヅ充分ニ其ノ論據ヲ傾聽セラレ、成程
ト思ハレル時ハソウデスカデ即決スレドモ 時ニハ水掲論トナリ、何レトモ決定シ難キコ
トモアツタ、其ノ時ニハ大抵、「一度松浦先生ニ診テ貰ツテ下サイ」ト云ハル、コトガ多カ
ツタ、私モ二三度斯様ノ場合ガアツタガ、松浦先生ガ私ノ考ヘヲ採用セラレタコトモアツ
タ、ソウシタラ先生ハ「アンタハ松浦君ニ頼ンデハアリマセンカ、松浦君ハ常ニアンタノ
肩許リ持タル、様デス」ト云ハレタコトガアツタ。先生ハ門下ヲ見ルコト恰モ慈母ノ如ク
デアツタ。

先生ノ思ヒ出ヲ書ケバ次カラ次ト限リハアリマセンガ獨リデ紙面ヲ餘リ占領シテモ濟マ
ナイト思ツテ筆ヲ擱キマス。

噫、我等ノ恩師、今ヤ幽明ヲ異ニス、只ダ朝夕、居室ニ高ク掲ゲタル先生ノ御寫眞ヲ拜
シテ往時ヲ慕ウノミ。



京大 雑誌抄讀會

2月27日午後6時半 於樂友會館

- | | | | |
|--|---|---|-----|
| 1. 腰薦交感神經節狀索切除ニ就テ | 賀 | 來 | 君 |
| 2. 手術後尿閉ノ一新療法 | 藤 | 浪 | 君 |
| 3. 肢端紅痛症ノ外科的療法 | 内 | 田 | 君 |
| 4. 異種屬間ノ輸血ニ就テ、並ニ大出血後ニ輸入セラレタル血
液代償液、殊ニ血清ノ有効期間ニ就テ | 西 | 田 | 君 |
| 5. 關節結核ニ對スル硫酸亞鉛液ノ應用 | 矢 | 田 | 貝 君 |
| 6. 鼠蹊「ヘルニヤ」手術ノ一新法 | 森 | 野 | 君 |
| 7. 蟲様突起炎ト植物性神經系統 | 赤 | 木 | 君 |
| 8. 膽石手術ニ於ケル總輸膽管十二指腸吻合ノ意義 | 勝 | 呂 | 君 |
| 綜説 廻盲辨ノ外科 | 藤 | 田 | 講 師 |

京大 雑誌抄讀會

3月24日午後6時半 於樂友會館

- | | | | |
|----------------------------|---|---|---|
| 1. レントゲン照射ノ一新法ニヨル化膿性炎症ノ治療法 | 石 | 川 | 君 |
|----------------------------|---|---|---|

- | | |
|---|---------|
| 2. 泌尿系統ニ於ケル留置カテーテルノ價值 | 菊 川 君 |
| 3. 整形外科學ニ於ケル早期診斷ト早期治療ニ就イテ | 鬼 束 君 |
| 4. 腎臓寫眞術ニ於イテ障害トナル鼓腸除去ノ新植助藥 | 林 君 |
| 5. 小腸ノ側々吻合術後晩期ニ起レル輸入脚盲端部ノ穿孔ニ就
イテ | 近 藤 君 |
| 6. 化膿性骨關節炎ニ於ケル脾臟食 | 宮 司 君 |
| 7. 背髓空洞症ノ外科的療法 | 五 郎 川 君 |
| 8. 肥大心臟勞作ニ及ボサル、機械的影響ニ對スル胸廓成形術 | 上 村 君 |
| 9. 十二指腸切除及ビ輸膽管、膵管移植ニヨル新法 | 鷲 尾 君 |
| 10. 實驗の骨折ニ於ケル骨再生及ビ假骨形成ニ於ケル「ヴァイ
ミン」Dノ意義 | 上 田 君 |
| 11. ヴイタミン缺乏症ノ骨再生機轉ニ及ボス影響 | 關 口 君 |

第15回高田病院學術談話會 昭和5年2月21日

- | | |
|---------------------|-----------|
| 1. 細菌ノ健康皮膚並ビニ粘膜通過問題 | 外 山 哲 二 郎 |
| 2. ウロクロモゲン反應ニ就テ | 藤 本 昭 雄 |
| 3. 結核ノ疑アル網膜白癩病ニ就テ | 岩 田 正 二 |
| 4. 特發性食道擴張症ニ就テ | 高 橋 敏 行 |
| 5. 臨床坐談 | 中 本 完 二 |

第16回高田病院學術談話會 昭和5年3月15日

- | | |
|---------------------------|-----------|
| 1. 特發性肋膜炎ニ就テ | 内 田 顯 正 |
| 2. 食道ノレントゲン學的診斷 | 黒 田 孝 也 |
| 3. 化膿性耳下腺炎ニ就テ | 細 谷 七 己 男 |
| 4. 更年期障礙ニ就テ殊ニギナンドールノ効果ニ就テ | 中 本 完 二 |
| 5. 一酸化炭素中毒者ト二酸化炭素加酸素瓦斯ノ吸引 | 藤 本 昭 雄 |